

ACE

Act and Communicate in English

第11号

特集

中学年からの接続を考える

Tips for Activities!

帯活動、こんにちは、どう？ ～ Small Talk への挑戦！ ～

COLUMN

異文化理解から、文化的調和の理解へ②



中学年からの接続を考える

1. はじめに

中学年の外国語活動から高学年の外国語科へスムーズに移行するためには、両者の違いを理解し、外国語活動での学習を外国語科での学習に活かせるような指導をおこなうことが大切です。ここで、外国語科は外国語活動とどのような違いがあるのか、再確認してみましょう。

2. 「慣れ親しみ」から「技能の習得」へ

外国語活動と外国語科の主な違いのひとつは、それぞれの目標です。外国語活動では、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めることを目指します。一方、外国語科では、慣れ親しみにとどまらず、実際のコミュニケーションで活用できる基礎的な技能を習得することが求められます。

では、「慣れ親しみ」と「技能の習得」にはどのような違いがあるのでしょうか。『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』（文部科学省, 2017, pp. 160-161）では、次のように述べられています。

「慣れ親しみ」は、単元に設定されている様々な活動の中で、その単元で使用するように設定されている語彙や表現を聞いたり話したりしている児童の行動として捉えることができる。一方、その語彙や表現を異なる場面でも使用できる状態を、技能を身に付けている姿、すなわち習得している状態と考えることができる。

つまり、外国語活動では、活動を通じて外国語を使っているという状態を作ることが目標であり、学習した語句や表現を後で使えるようにする必要は必ずしもありません。一方、外国語科では、学習したことを別の場面でも活用できるように、技能を習得することが求められています。

技能の習得のためには、繰り返しの学習が重要です。繰り返しといっても、ただ練習のために機械的に繰り返すのではなく、伝え合う目的や必然性のある場面を設定し、語彙や表現を聞いたり話したりする言語活動を通じて指導します。また、ひとつの単元の中で繰り返すだけでなく、シラバス全体を通して繰り返し同じ学習項目を段階的に取り上げる、スパイラルな学習も効果的です。

そのため、中学年の外国語活動で扱った簡単な語句や基本的な表現について、高学年の外国語科でも繰り返し取り扱うことが求められます。その際、中学年で学習内容を、そのまま全く同じように高学年でも繰り返すのではなく、語彙や表現を

平易なものから難しいものへと発展させていったり、異なるコミュニケーションの場面で使用したりするなどの工夫によって、より効果的な技能の習得につなげることができます。

3. 音声から文字へ

外国語活動と外国語科のもうひとつの主な違いは、扱う領域が異なることです。外国語活動では、「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」の3つの領域が設定されており、音声面を中心とした指導をおこなうこととなっています。一方、外国語科では、これら3つの領域に加えて、新しく「読むこと」「書くこと」についても扱います。

中学年では指導していない「読むこと」「書くこと」については、中学年ですでに扱っている「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」と同じレベルでの技能の習得は求めず、まずは慣れ親しませるところからはじめます。これまで音声を通して十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現について、発達の段階に応じて少しずつ「読むこと」「書くこと」の指導をしていきます。

また、中学年の外国語活動では「読むこと」「書くこと」について直接的には扱ってはいないものの、外国語活動のそのほかの領域や、国語科において、外国語科の「読むこと」「書くこと」につながる指導がすでにおこなわれています。そのため、「読むこと」「書くこと」についても、中学年との連携を意識して指導を進めていくことが大切です。その際、どのようなことに留意して指導をするとよいのか、学習指導要領に示されている「読むこと」「書くこと」の目標を確認しながら、考えてみましょう。

4. 読むこと

目標

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

外国語活動では、「聞くこと」の領域の目標のひとつとして、「文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする」ことが挙げられています。ここでの「文字の読み方」というのは、aであれば /ei/ といった、文字の名称の読み方を指します。つまり、すでに中学年でも、英語の文字の名称を聞いて、その文字を指さす、などといった活動は

5年生になった子どもたちは、4年生までの「外国語活動」からステップアップして、「外国語科」という教科として英語を学習することになります。中学年から高学年の英語の学習にスムーズに移行するためには、どのようなことに留意して指導をおこなうとよいのか、改めて確認しましょう。

おこなっているということです。これを踏まえて、5年生の「読むこと」の指導では、まずは文字の名称を聞いて識別するという復習からはじめて、文字の名称を発音する活動へとつなげていきます。

また、外国語科では、「聞くこと」「話すこと」の学習を通して音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、イラストなどを頼りに読んで、意味が分かるようにすることも目標となっています。文字で書かれた語句や表現の意味を理解するためには、その語句や表現を、頭の中で音声化する必要があります。そのため、外国語科では、文字の名称に加えて、aであれば /æ/ といった、文字の音の読み方についても扱い、文字と音を関連付けられるようにしていきます。そのための指導について、学習指導要領では「児童の学習の段階に応じて、語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導すること」と示されています。したがって、単に a という文字の音が /æ/ や /ei/ である、という文字と音との対応関係を教えるのではなく、例えば apple という語の中で、a の文字の音は /æ/ であるということを示します。その際、いきなり apple という単語を読ませるのではなく、まずは、例えば apple, animal, ant のように初頭音（単語の語頭の音）が同じ単語を文字で示し、単語の音を聞かせたり、発音させたりするなどして、音と文字との結び付きへの気づきを促すところからはじめ、少しずつ段階的に文字に慣れ親しませていくことが大切です。

5. 書くこと

目標

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

3年生の国語科のローマ字指導において、児童はすでにアルファベットの大文字、小文字を書くという体験をおこなっているはずですが、文字を書く技能を身につけるには時間がかかり、定着度は児童によって大きく異なります。「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする」というのは、5・6年生の2年間を通しての目標です。一度に A～Z、a～z

をすべて書けるようにするのではなく、少しずつ段階を踏んで、丁寧に指導をしていくことが大切です。

また、C, L, Q, X など、日本語のローマ字表記では用いられない文字もあるため、十分触れさせてから書かせるなどの工夫が必要です。

さらに、3年生の国語科では、「日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと」の指導がされています。ここでの「日常使われている簡単な単語」というのは、人の名前や地名などの固有名詞を含めた、児童が日常で目にする簡単な単語のことです。そのことを踏まえて、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書いたり、書き写したり、という目標に向けては、My name is Ken. や I am from Hiroshima. など、国語科でも児童が書いた経験がある可能性が高い、自分の名前や地域の名前等をなぞったり書き写したりするところからはじめると、児童への負担が少ないと考えられます。その際、現在の国語科で扱うことの多い日本語のローマ字表記（訓令式）と、英語でよく使われるローマ字表記（ヘボン式）は異なり、英語では例えば Hiroshima ではなく Hiroshima と表記することにも留意して指導する必要があります。

6. まとめ

高学年の外国語科では、中学年の外国語活動で音声面を中心に慣れ親しんだことについて、異なる場面や状況でも使うことができるよう、より発展的に学習をしたり、文字での学習につなげていったりします。そのため、中学年の外国語活動でどのような語句や表現を扱ったのか、外国語活動の担当教員に確認しておく、スムーズに高学年での外国語科の指導をはじめることができそうです。

次の2ページでは、中学年の外国語活動の指導を踏まえた、5年生の外国語科の授業の実践例や具体的な指導方法を紹介します。

【参考文献】

- 文部科学省（2017）.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』.
- 文部科学省（2017）.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』.
- 文部科学省（2017）.『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』.

中学年からの接続を考える 実践①

児童が外国語科の学習にスムーズに移行できるようにするためには、中学年で慣れ親しんだ語句や表現を繰り返し聞かせることが大切です。5年生のはじめにおこなうとよい「聞くこと」の指導として、Small Talk と教科書のイラストを使った活動を、乗富智子先生にご紹介いただきます。

1. はじめに

5年生の指導では、中学年で外国語活動の学習を踏まえ、「聞くこと」の活動を重視しています。これまでに慣れ親しんだ言語材料に繰り返し触れながら聞かせることで、児童が外国語科の学習にスムーズに移行できるよう工夫することを心がけています。本稿では、聞くことの指導として、Small Talk と教科書のイラストを活用した指導について紹介します。

2. Small Talk の指導

私は、いつも授業のはじめに Small Talk をおこないます。Small Talk の指導では、児童同士が継続的なやり取りができるようになることを目指しますが、5年生のはじめのうちは児童同士のやり取りはおこなわず、聞くことを中心に指導し、段階的にやり取りにつながれるようにしています。トピックは季節の話題、教師に関すること、単元の学習内容に関することなど、児童が楽しんで聞くことができるようなものを選びます。また、Small Talk の中にはこれまでに学んだ語彙や単元の学習で必要となる言語材料を繰り返し使うようにしています。例えば、5年生のはじめの単元では自己紹介をすることが多いので、既習である食べ物の語彙や I like ~. などを使い、これらの言語材料に繰り返し触れられるように工夫しました。

以下は Small Talk の例です。「好きな果物」を話題とし、果物の飾り切りの写真を示しながら、教師の好きな果物について話したり、児童の好きな果物について尋ねたりしました。

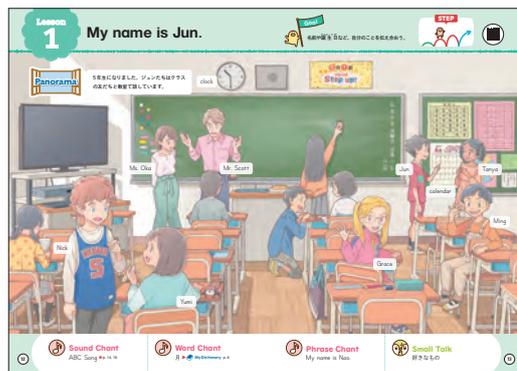
Do you like fruits? (果物の写真を指しながら) What's this? Yes, it's an apple. What's this? It's a melon. I like apples. Do you like apples?
Look at this picture. (白鳥の形に切られたりんごの写真を示す) Wow, it looks like a bird. It's a swan. It is made of an apple. It's very beautiful. I like apples. What fruits do you like? Oh, you like apples. Me, too. How about you?

この Small Talk では、児童はさまざまな果物の飾り切りの写真を見ながら、「すごい！」などと声を上げ、楽しんで聞いている様子が見てとれました。また、教師の問いかけに児童は日本語で答えたり単語で答えたりしていましたが、教師が英語で言い直したり、肯定的な言葉かけをしたりすることで、安心して楽しんで聞くことができていたようでした。

3. 教科書のイラストを使った指導

各社の教科書では、各単元のはじめにイラストを見ながら音声聞く活動が設定されています。音声を聞かせる前に、教師はイラストについて児童に英語で問いかけながら、やり

取りをします。以下は CROWN Jr. 5 Lesson 1 冒頭の Panorama ページです。教室の様子が描かれたイラストの中には、Let's Try! で扱われている時間、曜日、文房具などの語彙がたくさん盛り込まれています。



Look at this picture. Where is this? It's a classroom. Can you find a clock? Yes, it's on the wall. What time is it? It's 10:30. (机の上のペンケースを指しながら) What's this? Yes, it's a pencil case. What color is this? It's light blue. Do you have a light blue pencil case? How many pencil cases are there in the picture? One? Two? Yes, three pencil cases. Look at this pencil case. What animal is this? It's a dog. This is Yumi's pencil case. What is the boy's name? Yes, he is Nick.

上記の例では、時計や文房具、動物の単語のほか、Do you have ~? の表現にも触れさせています。このように、5年生のはじめの段階では、中学年で慣れ親しんだ語彙や言語材料に繰り返し触れさせることが大切です。また、教師が児童とやり取りをしながら聞かせることで、段階的に児童がそれらの言語材料を使って話す機会につながります。

4. 終わりに

私が5年生のはじめの指導で一番大切にしたいことは、児童が「わかる」「できる」「やってみよう」と思うような授業をすることです。そのためには、聞くことを指導の中心に据え、段階的に話すことや読むこと、書くことにつなげていくことが必要だと考えています。デジタル教科書などの活用も有効ですが、児童の実態に応じて、教師がゆっくり話す、強調する、繰り返す、言い換えるなど、聞かせ方の工夫も重要になります。



乗富智子(のりとみ・さとこ)

金沢大学人間社会域学校教育学類附属小学校教諭。金沢市内の公立学校勤務を経て現職。
※所属は2025年3月末時点のもの。

外国語科の導入期である5年生のはじめでは、授業をデザインする際に、どのようなことを心がけるとよいのでしょうか。中学年の外国語活動での学びを活かし、外国語科での学習にスムーズに移行していくために大切なポイントを、俣野知里先生にご紹介いただきます。

1. はじめに

中学年の外国語活動で培った「聞く・話す」力をもとに、高学年の外国語科では、「読む・書く」活動にも挑戦します。本稿では、教科としての学習が始まる第5学年導入期の実践において大切にしていることをご紹介します。

2. 児童の学びのあしあとを知る

外国語科の授業について考える際、児童が外国語活動においてどのような学びを経験してきたのかを知ることが大切です。中学年で使用する共通教材や年間指導計画、教科書会社が作成している外国語活動と外国語科との連携資料等を参照したり、可能であれば中学年の外国語活動を担当していた指導者と情報を共有したりすることで、外国語科の学習を始める前に児童の主な学びのあしあとを把握しています。また、学校のホームページの記事などを見て、過去の外国語活動の様子や活動内容を確認することもあります。児童が外国語活動の学習を通じてどのような表現と出会い、どのような活動を経験してきたのかを知っておくことで、外国語活動の2年間での学びを第5学年からの外国語科の学びに活かしやすくなるからです。なお、外国語活動と外国語科では、目標等が異なるため、それぞれの特徴について理解しておくことにも留意しています。

また、児童が外国語活動の学習をどのように捉えているのかについて、児童の声を聞くようにしています。楽しかったことや難しかったこと、心に残っている学習等、さまざまな声があります。それらの声からは、外国語科の学習を楽しみにしている児童もいれば、すでに英語に苦手意識をもっていたり不安に思っていたりする児童もいることがわかります。それぞれの思いや考えは、授業をデザインする際にとても役立っています。

3. 児童の学びをつなぐ

外国語活動から外国語科への学びをつなぐために、*Let's Try!* など、外国語活動で扱った教材・教具を再び活用することも一案です。

外国語活動では表現の定着を第一のねらいとはしていませんが、外国語活動で使用していた教材の紙面等を示すだけで、児童から「これ知ってる」「前にやったことある」等の声が聞かれ、既習の学習内容を想起しやすくなる場合があります。外国語活動での学びが外国語科での学びとつながっていることを児童自身も実感でき、安心して学習に取り組む様子が見られます。

また、外国語科では学習者用デジタル教科書を用いた学習も始まります。その機能は多岐にわたるため、何をどのようなときにどのように活用すれば有効な学びのツールとなるのかについて、児童自身が体験的に学ぶことができる機会を設定しています。さまざまな学び方を身につけることで、児童自らが必要

感をもって学び方を選択することにつながっていくと考えます。

CROWN Jr. 学習者用デジタル教科書の機能の例



速度を調整して音声を聞く



音声をたよりに、イラストと単語をマッチングする単語ゲーム

外国語科の導入期だけに限ったことではありませんが、新たな学びだけでなく、その前後の学びにも目を向けて学習内容の系統性を把握するとともに、児童の声を聞いたり、注意深く様子を観察したりすることで、授業への新たな視点を得ることがたくさんあります。児童が小さな成功体験を積み重ねながら学習を進めることができるよう、引き続き、児童の姿に学びたいと考えています。

【参考 URL】

https://tb.sanseido-publ.co.jp/O6cjr/images/top/O6CJ_pamph_2.pdf



俣野知里(またの・ちさと)

京都教育大学修士、関西学院大学博士課程単位取得満期退学。京都市立小学校、京都教育大学附属桃山小学校での勤務を経て、2022年度より京都市立二条城北小学校にて勤務。
※所属は2025年3月末時点のもの。

Tips for Activities!

やってみよう
英語活動

英語でのやり取りをどのように子どもたちに促すか、悩んでいる先生も多いのではないのでしょうか。子どもたちを自然にやり取りに巻き込む、Small Talk の方法をご紹介します。

帯活動、こんなん、どう？ ～ Small Talk への挑戦！～

新年度がいよいよ始まります。外国語科や外国語活動の授業を担当される方は、教科書や指導書などを読んで、新たなスタートへのイメージを膨らませている時期かと思います。

1年後やこの先のめざす子どもの姿が決まれば、いよいよ授業づくりです。私の場合、めざす子どもの姿の実現を支えるための帯活動を考えることに時間を費やすことが多いです。週2時間または週1時間という限られた時間の中で、どんな活動を大切にしながら授業を展開すればよいのかを毎年悩んでいます。

今回は、私が帯活動として続けている Small Talk について紹介します。授業の展開としては、Teachers' Talk から子どもたちへ英語でやり取りすることを促すことが基本の形となっています。子どもたちには Teachers' Talk とは言わずに、「こまっトーク」という名前で伝えています。「こまっトーク」では、指導者や子どもがコミュニケーションで感じている「困ったあるある」を、指導者同士、または子どもたちを巻き込んで英語でやり取りをします。

例えば、聞き手としての役割を確認したい授業のときは、「こまっトーク」は以下のように展開します。

T1 : I went to Osaka yesterday.
T2 : Oh, nice!
T1 : I ate *miso ramen*.
T2 : Oh, nice!
T1 : It was very delicious!
T2 : Oh, nice!
T1 : (困った表情をする)



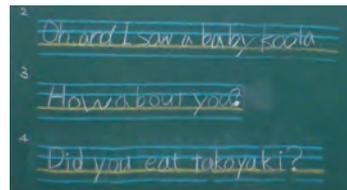
靴下？ いや、パペット？
同僚から頂いた沖縄土産の靴下です。ALT がいないときは、第二の相棒として活躍しています。

※ ALT がいない場合は、パペットを用いて一人二役で Teachers' Talk を展開することもあります。

こんなやり取りを展開すると、子どもたちは「話を聞いている羽瀨先生(T2)が悪い～！」と言い始めます。「みんなだったら、どんなやり取りになるの？」とペアで昨日したことについて英語でやり取りすることを促す流れができます。

「こまっトーク」では、指導者があえて悪い例を見せて、子どもたちが英語を話すことへの心理的なハードルを下げるのが期待できます。また、ふだんの授業での様子から困っている状況を課題設定することができるので、子どもたちも「あ～それ！あるある！」という共感から課題意識をもって「こまっトーク」以降の活動に取り組む様子が見られます。

子どもたちのやり取りの様子を見て、工夫していた点や難しかった点を共有した後に、「ALT の先生ならどんな英語を使うのだろう？」「教科書に出てくる〇〇は、どんな英語を使っているのかな？」と問いかけます。すると、学習者用デジタル教科書などを使いながら、聞き手のコツを見つけようと目的意識をもって聞く活動に移ることができます。その後には、見つけたコツを黒板に書き写すように指示をします。「こまっトーク」を軸に、聞くことや書くことにもリンクするような45分間の授業を展開することができます。



聞き手のコツの板書例

今回は高学年の外国語科の授業を想定していますが、もちろん中学年の外国語活動でも似たような活動を展開することができます。指導者も子どもも、Small Talk はすぐにできるようにはなりません。日々の継続が力になるので、帯活動に取り入れてみてはいかがでしょうか？

Classroom English

Let's play *janken*. 最初はグー！

「じゃんけんしよう。最初はグー！」

「最初はグー」は魔法の言葉です。あえて日本語で言うのがおすすめです。話し手、聞き手の役割を決めるときも「最初はグー」と指導者から言われると誰もがじゃんけんをたくなります。声を出すので、活動の入りとしてもリズムがうまれます。

Nice talking with you.

「話せてよかったです」

意外と指導できていないのは、やり取りの終わり方です。どうしても“Thank you!”ばかりになってしまうので、いろいろな会話の終わり方を伝えたいと考えています。



羽瀨弘毅(はぶち こうき)

西宮市立甲陽園小学校教諭。専門は英語教育学(小学校)、学習評価、ICT活用。働きながらの大学院生活(関西大学大学院外国語教育学研究科博士課程前期)を終え、全国での実践・研究発表を行っている。自称、教育界一のオリックスファン。
※所属は2025年3月末時点のもの。

異文化理解から、文化的調和の理解へ②

前回 (ACE 第 10 号) は、リード (2022) の「文化理解」のモデルの第一段階についてお話ししました。文化を理解する出発点として、「違い」ではなく、「共通点」に焦点を当てることの大切さを指摘しました。今回は第二・第三段階についてです。

段 階	年 齢	
第二段階	小学校 中学年	児童が自らの文化アイデンティティを発達させ、他人に同情する能力などを養っていく過程で、自らが属さない文化との比較を行えるようにする。この際、ステレオタイプ的な「文化」の比較を避ける。同じクラスにいる多言語話者の児童の文化などにもスポットライトを当てることが大切である。絵本やプロジェクト・ベースの活動を行い、クリティカルシンキングを養い、家族、友情、移住といったような社会的な問題への関心を高める。
第三段階	小学校 高学年以降	この段階では、批判的な目を持ちながら、文化への理解を深める教材や活動に取り組み、自分の言語・文化を相対化し、多様性への理解を深める。インターネットやその他のテクノロジーなども有効活用しながら、多様な背景をもった友だちや人々と、地球温暖化や移民など、グローバルな問題について、意見交換を行う。

第二段階で言語文化の比較を行う際の注意点は、ステレオタイプ的な「文化」の比較を避けることです。ユーモアやジョークなども、そのおもしろさは、人々がもっているステレオタイプ的なイメージに基づいたものが少なくありません。教材に使われるイラストなども、ステレオタイプ的なイメージを増長してしまうようなものが多々あります。我々教師も、自分がステレオタイプ的な「文化理解」をしていることに気がついていないことも少なくありません。

インターネットを見ると、ステレオタイプ的な日本

文化理解に基づいた動画やイメージ、ジョークなどがたくさん出てきます。多くの日本人は和服を着ることは稀ですし、いつも寿司や天ぷらを食べているわけでもありません。こうしたものをあえて教材として使い、日本に対する誤解を見つけることから始めて、児童生徒が自分の中にあるほかの言語や文化への誤解に気づくきっかけにするというのもひとつの方法です。さらに、クラスに外国にルーツがある児童生徒がいれば、その国の文化紹介をしてもらおうと、児童生徒の文化への理解を高めることができます。しかし、その際、「○○さんは××人だから、△△するものだ」といったような型にはまった理解をほかの児童生徒にさせないようにする配慮が不可欠となります。

第三段階で、多様性を認め、さらに積極的に多様性を肯定するには、まずは自分の言語・文化を相対化させることが大切です。やはり、その根底には、「違い」ではなく、「同じ」人間としての尊厳を認め、尊重し合うという態度が必要なのではないでしょうか。

文化をどのように外国語教育の中で扱っていくのかは、難しい問題ですが、言語教育の根幹でもあります。リードの考えは、ヨーロッパをベースにしたものですし、日本の学校でそのまま導入するには、他教科と合体しながら一部を日本語で行うなど、工夫が必要でしょう。また、文化間の違いを固定的に認めているという問題点もあります。ただ、出発点としての意義はあるでしょう。いずれにせよ、今までの「異文化理解」から「文化的調和をめざす」といった視点を持ち、同じ人間として互いを思いやる気持ちをはぐくめるようにするカリキュラムや教材、指導が、これからの地球人には不可欠のように思います。

【参考文献】

Read, C. (2022). Creating a model for intercultural competence in early years and primary ELT. In D. Valente & D. Xerri (Eds.), *Innovative practices in early English language education* (pp. 57 -79). Palgrave Macmillan.



バトラー後藤裕子

(ばとらー・ごとう・ゆうこ)

ペンシルバニア大学教育学大学院教授、同校 TESOL プログラム・ディレクター。

令和6年度版

CROWN Jr. 5 6

学習者用デジタル教材のご案内



ポートフォリオ機能と豊富なコンテンツで自学をサポート！



ポートフォリオ機能を搭載！

Let's Read & Write やふりかえりなどで書き留めたことを一覧できます。

ゲーム感覚で単語学習&豊富な音声でしっかり学習

パノラマとMy Dictionaryには、文字や音声とイラストをマッチングするゲームを用意しています。

チャンツ音声のカラオケ再生機能などの豊富な音声コンテンツで、児童自らの学びを支えます。

学習者用デジタル教材

書名	価格
CROWN Jr. 5	1,650円(税込)
CROWN Jr. 6	1,650円(税込)

※ My Dictionary を含みます(いずれかの学年の初回ご採用時に付属)。My Dictionary の分売はできません。

※ デジタル教科書・教材一体型の商品です。

※ 株式会社 Lentrance の提供する Lentrance Reader でのご利用となります。対応環境は、Lentrance Reader に準じます。

※ 児童 1 名のご利用につき、1 ライセンスが必要です。当該の児童が在学の期間有効です。

※ 上記は学校採用専売の商品です。一般向けに販売する商品とは異なります。

AI がスピーキングを自動採点!! 英語の学びを総合的に支援!!



ELST[®] Elementary

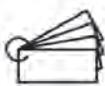
小学校英語 総合対策アプリ

令和6年度

CROWN Jr. 5 6 準拠

おもな機能 ▶▶▶▶▶

単語



「正しい発音を聞く・真似て発音する・書く」のサイクルを通して、語彙を定着させる学習ができます。

会話



あいさつや質問への返答など、さまざまな場面に合わせた会話表現を学ぶことができます。

英検対策



画面に面接官が登場し、実際の面接形式に沿って、練習に取り組むことができます。

サービス提供:  株式会社サインウェーブ <https://www.sinewave.co.jp/>

価格、サービスの詳細は下記の弊社連絡先、またはお近くの弊社担当者までお問い合わせください。

上記のサービスについて、令和6年度版教科書に関連する内容は、いずれも開発中です。予告なく変更となる可能性があります。

ご案内

文部科学省「令和7年度学習者用デジタル教科書の導入」について

提供の詳細につきましては、弊社ホームページにてご案内しております。

学習者用デジタル教科書の体験版もご覧いただけます。

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/digitaltext/support/>



三省堂

〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2

三省堂 教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。

授業のお役立ち情報を発信

三省堂
LINE 公式アカウント



三省堂